

人権だより

令和5年度 1学期号

令和5年7月20日発行

【 砥部分校 人権だよりについて 】

令和5年度、初めての人権だよりを発行しました。

これは、人権委員による活動です。各クラスから選出された2名の委員が、各学期に一度発行します。今学期は3年生人権委員が担当です。今回のトピックは以下の通りです。

- 坂村真民さんの詩の紹介
- 人権・同和教育ホームルーム活動報告

今年度、砥部分校は10月31日に砥部町全域で開催される、中予地区の人権・同和教育の研究協議の会場になります。全校でホームルーム活動を行い、多くの方に参観していただく予定です。

砥部分校では、1年生の遠足時に町内にある「坂村真民記念館」を訪問します。しかし、3年生は感染症対策で訪れることができませんでした。そこで、3年生の人権委員さんが真民さんの詩から、3篇の詩を選び紹介してくれます。

【 坂村真民（さかむらしんみん）さんについて 】

1909年、熊本県玉名郡府本村（現・荒尾市）生まれ。終戦後、朝鮮から引き揚げて愛媛県に移住。高校の教員として国語を教え、58歳の時、砥部町に定住し、92歳で砥部町名誉町民に選ばれる。2006年97歳で砥部町にて永眠。20歳から短歌に精進するが、41歳で詩に転じ、個人詩誌『詩国』を発行し続けた。

一遍上人を敬愛し、人生の真理、宇宙の真理を紡ぐ言葉は、弱者に寄り添い、癒しと勇気を与える。

出典：坂村真民記念館 HP

「今を生きる」
 咲くも無心
 散るも無心
 花は嘆かず
 今を生きる



「希望」
 漠然と生きているのが
 一番いけない
 人間何か希望を持たねばならぬ
 希望は小さくてもよい
 自分独自のものでは
 必ずいつか
 それが光ってくる
 そして
 その人を助けるのだ

「大恩」
 三つの時の写真と
 七十三歳の写真とを並べて見ていると
 守られて生きてきた
 数知れないあかしが
 潮のように迫ってくる
 返しても返しても
 返すきれない
 数々の大恩よ



【 1学期の人権・同和教育ホームルーム活動 】

1年【よりよい人間関係をつくろうー心豊かな生き方を目指してー】

私たちは、より良い人間関係をつくろうというテーマで活動しました。まず、自分の長所と短所を書きました。それから、その短所をポジティブな言葉に置き換え長所に言い換えていきました。このことから、どんな短所も長所に言い換えられることを学びました。

ホームルーム活動中、みんな積極的に話し合いに参加していたり、班の発表をがんばっていたりしていました。また、坂村真民さんの「二度とない人生だから」という詩を読んだ感想では、一度しかない人生を大切にしたいという声が多かったです。



←1年生の様子



2年生の様子→

2年【部落差別の起こりを学ぼうー不合理と理不尽に向き合う人々の歴史ー】

私たちは、今回のホームルーム活動で人権問題に基づいたキーワードを一人一枚のスライドにして、それを繋げながら発表しました。調べる上で人権問題の歴史や言葉について学ぶことができました。自分たちが調べたことに対して先生が補足を入れてくださったので、さらに理解を深めることができました。差別の成り立ちやどんなに不合理な差別が行われていたのかを学習し、最近の感染症患者に対する差別についても再確認し、差別が認識されている現状で、今まで学んだ知識を活用して、差別を少しずつでもなくしていけたらいいと思います。今回の学習を通して、昔から差別は続いていて、形を変えながら現在まで残っているということに気づくことができました。みんな、真面目に取り組んで、素敵な発表をされていてとても良い雰囲気の人権・同和教育ホームルーム活動になったと思います。

3年【確かな進路保障のために】

3年生は就職や進学における差別について学びました。

まず、面接試験の場面想定劇を代表者が行い、その中で差別につながるおそれのある質問を班で話し合いました。両親の仕事や自宅の詳しい位置、尊敬する人についてなど、個人のプライバシーや信仰に関わることなどは不適切な質問であると知りました。そうして、自分がそのような質問をされた際には、「答えない・書かない・提出しない」を徹底するということを学びました。

3年生は進学・就職に向けて各々が歩み始めました。実際に公正な選考を受けるには、本人の能力、適性、意欲で判断してもらう必要があるため、今回学んだことを活かして、適切な対応ができるようにしたいです。

↓ 3年生の様子

